

【根室振興局産業振興部農村振興課だより】

## 農地・農業用施設の被害を想定した初動対応訓練

令和4年7月12日、標津町・羅臼町及びJA標津と合同で「農地・農業用施設の被害を想定した初動対応訓練」を実施しました。

近年、大雨や地震などの大規模自然災害が頻発・激甚化していることを踏まえ、発生直後の初動対応や情報伝達力の向上を目的に、降雨が多くなる秋に備え、令和2年度から実施しています。

今年度の訓練では、停滞した梅雨前線の影響で、北海道でも大気の状態が不安定となり、標津町及び羅臼町の観測所2箇所で24時間雨量200mm前後の降水があったとのシナリオで始まりました。連結ブロック水路の決壊や、河川氾濫による農地の土砂流出等の訓練用被害情報をもとに、例年実施している被害状況の伝達訓練に加え、査定前着工資料などの応急仮工事の報告についても、内容や連絡体制の確認を行いました。



標津町へのリエゾン派遣を指示



情報収集に努めるリエゾン（仮想役場）

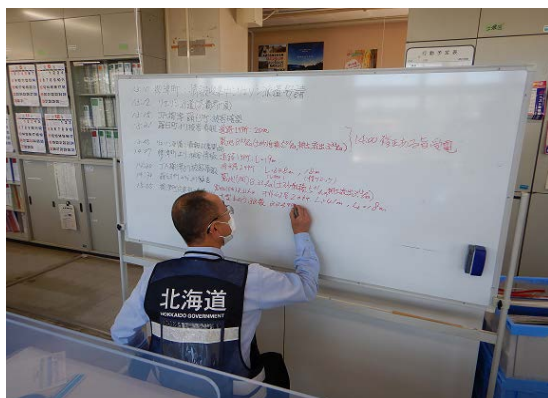
机上訓練ではあるものの、リエゾン（現地情報連絡員）を仮想役場として振興局内に配置するなど、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、実際の発災を意識した対応を心がけ、被害状況の収集や情報伝達等の初動訓練を通じ、問題点など課題の抽出を行いました。

### （情報整理担当者）

「訓練を行うことが目的ではないと意識して挑んだ。今回の訓練ではスムーズにいったが、いざという発災時にも同様に行動できるか不安を感じた」

### （リエゾン）

「実際の派遣では移動に2時間程度要することから、いつでも速やかに出動できるよう、普段からの災害発生に備えた事前準備と高い防災意識を持つことが大切」



被災状況を時系列で整理  
（ホワイトボードを活用）

根室管内は“千島海溝沿いの巨大地震”の可能性が示唆され、今後30年以内に震度6弱以上の地震発生確率80%と、強い揺れや大きな津波が想定されます。今回明らかになった課題等について、初動対応能力と防災意識の向上に向けて、少しずつ改善する必要があると考えています。